

せっかくだから

◆◆ 私らしく、あなたらしく ◆◆

和泉昭子（いずみ あきこ）
生活経済ジャーナリスト。横浜国立大学卒業後、出版社・放送局を経て、フリーのキャスターに転身。NHKを中心に、ニュース・情報番組を担当。95年CFP取得後、現職へ。現在は、各種メディアや講演、個人相談を通じて、マネー&キャリアの情報を発信。多摩大学大学院客員教授。



こんにちは。今月からこのコーナーを担当することになりました和泉です。どうぞ、よろしくおつきあいください。

初回なので、景気のいい話はないかなと考えていたのですが、なかなか思いつきませんでした。この連載はできるだけ本音ベースで書いていこうと思うので白状すると、ここ数カ月、私自身の気持ちが落ち込んでいたからです。

きっかけは実家の引越でした。ひとり暮らしをしていた母が、姉夫婦の住む海辺の街で余生を送ることになり、住み慣れた家を引き払って小さなマンションに移ったのです。

私も賛成したはずのことに、いざ生まれ育った実家がなくになると、なんだか「よりどころ」を失ったような寂しさがありません。

今の私の家から通うのも遠く、狭くなった家には落ち着けるスペースもありません。デメリットばかりが気になって、だんだん新たな門出を喜ぶことができなくなっていました。

梅雨明け間近のある日、いつものように「遠いなあ」とぼやきながら重い足取りで実家へ向かっているとき、サーフボードをかかえた男の子たちがワイワイ前を歩いていました。「そっだ！ここは海が近いんだっけ」と思い出し、彼らの後を追って海岸へ。

すると、いきなり広がる白い砂浜。右には富士山、左には手が届きそうな距離に江ノ島が見えるではありませんか。そのまま持っていた日経新聞（！）を敷いて砂浜に寝転んで、波の音を聞き続けました。

そして思ったのです。「せっかく引越したんだから、もっとよい面に目を向けよう。ここで過ごす時間を思いっきり楽しもう」と。早速、新しいビーチサンダルと（新聞紙の代わりに）ビニールシートをゲットしたら、急にワクワクしてきました。

人生も仕事も、思いどおりにいかないことが多いですよ。今の仕事にやりがいを感じられなかったり、誰かの後始末を押し付けられたり、人から悪口を言われたり…。

でも、この前までの私みたいに、悪い面ばかり見て不平を言っているだけでは、自分も周囲も不愉快なだけで、何も解決しません。

どんなことも、そのこと自体に良い・悪いの性質はなく、自分の心が評価しているのです。それなら、「せっかくだから」と肯定的に受け止め、起きたことすべてを自分の栄養にしてしまったほうがハッピーになれるんじゃないでしょうか。

毎日いいことばかりの人なんていないはず。だけれど、いつも元気な人っていますよね。そういう人はきつと、「せっかくだから」が上手なんだと思っただけです。

逆境に立たされたとき、それをプラスに転じる力があるかどうか。キラキラ輝く秘訣は、その辺りにありそうな気がしています。